

あのとときの常呂・写真館

VOL 118

(1983年)

昭和58年5月1日

常呂駅で観光旅行記念入場券発売

▶昭和58年4月29日付けの北海道新聞は、「旅の思い出に1枚いかが」というリードに続き、「旭川鉄道管理局が網走駅・常呂駅・紋別駅で初の試みとして、5月1日から観光旅行記念の入場券を発売する…常呂駅の発売予定枚数は2000枚…特に常呂駅では町の開基百年。大いにPRしたいと意気込んでいる」と伝えています。●また、「広報ところ」5月号の「国鉄だより」のコーナーでは、「大型(3cm×8.8cm)の観光記念専用

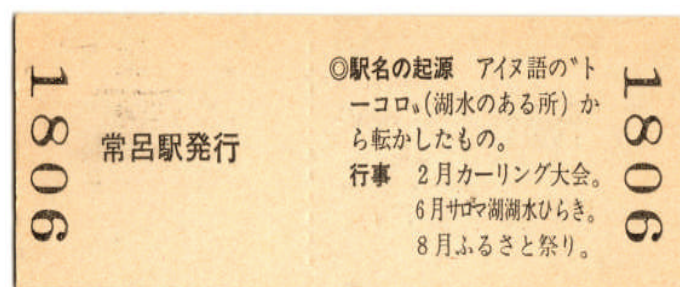
の入場券、表面には常呂特産の鮭とホタテ・遺跡から出土した壺のイラスト、裏面には駅名の起源と常呂町の代表的な行事、1枚120円」であることを紹介しています。



*左3枚：入場券の表

上から順に昭和58年、59年、60年発売。金額が10円ずつ高くなっています。

*ちなみに、常呂図書館所蔵の常呂駅入場券では、昭和52年12月(60円)、56年5月(100円)、57年3月(110円)。



*2月の「カーリング大会」は、昭和56年から始まったNHK杯のカーリング大会を指します。屋外のリンクだったこともあり、今とは違う2月の開催でした。

▶昭和58年5月13日付けの北海道新聞が、この「観光旅行記念入場券」発売の経緯と人気が高いことを「赤字国鉄久々の笑い イラストに人気、意外な売れ行き」の見出し・リードを付けて解説しています。その内容は「昭和57年から札幌鉄道管理局が幸福駅や今金駅などの縁起切符のブームに目を付け、表に観光地のイラストを刷り、裏に駅名の起源を記した観光案内的な切符の発売を全国初の試みとして企画。第1弾／洞爺・登別・小樽・占冠・富良野、第2弾／銭函・札幌・千歳空港駅など5駅、第3弾／余市・岩見沢駅など8駅で6万5千枚以上を販売。旭川鉄道管理局がこのアイデアを借用して比布・紋別・常呂・増毛・網走の5駅で同様の入場券を発売。釧路鉄道管理局でも7月に発売予定」。

▶この当時、湧網線の廃止につながる大きな動きあり、廃止反対運動は節目を迎えていました。

●昭和57年11月22日、国鉄が湧網線を含む本道14路線を第2次廃止路線として運輸大臣に承認を申請。●同月24日、運輸大臣が関係道県知事に国鉄から第2次線の廃止申請があったので、知事意見があれば早急に提出するよう要請。●12月7日、道内の廃止対象路線自治体が「北海道国鉄特定地方交通線対策市町村会議」を設立、全体として道知事・道議会に廃止反対を陳情。●同月9日、全国知事会が関係17道県の知事意見書提出の「凍結」を決議。（知事意見書の提出イコール、運輸大臣による廃止承認の前提になっていた）●同月14日、道議会代表質問で、知事が当分知事意見書は出さないと意思表示。●昭和58年に入ってから、道知事・道議会・北海道国鉄特定地方交通線対策市町村会議が「国鉄地方線第2次線の選定凍結」を求め、活発な活動を行います。こうした状況の中で企画・発売された記念入場券でした。

*下4枚の写真は、昭和58年2月、常呂駅での朝の乗車風景

